

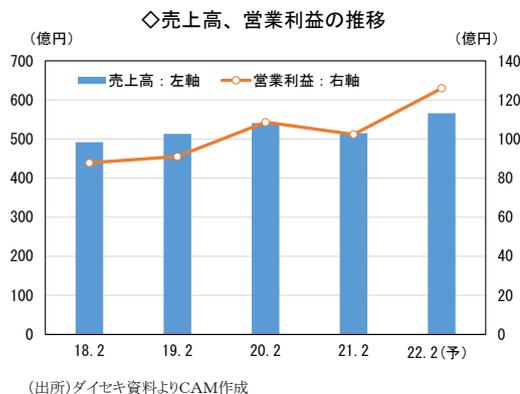
企業ニュース **ダイセキ**

(東証1部：9793) <https://www.daiseki.co.jp>

作成者：奥村義弘

産業廃棄物中間処理事業の大手

1958年設立、産業廃棄物中間処理事業の大手。廃油処理リサイクルでは、潤滑油を再生、廃油を収集し、その成分・性状に応じて再生重油、補助燃料に加工する。排水処理リサイクルでは含油廃水、廃酸、廃アルカリなど企業から排出される液状廃棄物を収集し、「化学的前処理」と「活性汚泥処理」を組み合わせ合わせて処理・リサイクルする。汚泥処理リサイクルでは、採取したサンプルを分析して、脱水、乾燥、混練など最も効率的な処理をし、処理後の汚泥は、可能な限りセメント原料や補助燃料にリサイクルする。その他、収集運搬、処理・リサイクルとあわせた産業廃棄物に関する総合的なサービスを提供。上場子会社には土壌汚染調査・処理専門のダイセキ環境ソリューション（1712）を持つ。



脱炭素の広がりも追い風に

22.2期・第2四半期累計（3-8月）の連結業績は売上高が290億円、前年同期比12%増、営業利益が68億円、同37%増。製造業の生産回復を受け、ダイセキ単体の廃液処理受注量が第2四半期からプラスに転じた。原油並びに鉛相場の回復で、リサイクル燃料、鉛の販売価格が回復し採算が改善した。対面営業の復活で、新規の取引契約数も前期比プラスに転じた。子会社では、ダイセキ環境ソリューションは高付加価値案件への集中で採算が改善、廃鉛バッテリーを扱うダイセキMCRはフル生産が継続する中、鉛価格が上昇し利益率が上昇した。

22.2期通期の会社計画は売上高が566億円、前期比10%増、営業利益が126億円、同23%増。利益率の改善を考慮し、営業利益で12億円、業績予想を上方修正した。足元は新型コロナウイルス感染症の影響で、メンテナンスや清掃工事の延期、自動車の生産調整といったリスク要因はあるが、事業環境の回復が続くとみている。24.2期までの中計では、旺盛な需要に対し大型の設備投資を実施しつつ、3期連続最高益更新を計画する。最終年度に売上高665億円、営業利益135億円、ROE10%以上を目指す、営業利益計画は1年前倒しするペースで進捗している。

【株価動向・投資判断】

ESG経営の広がり、脱炭素社会に向けた取り組みの強まりは同社のビジネスに追い風。

<9793 ダイセキ 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.2	54,088 (5)	10,865 (19)	11,025 (20)	7,044 (15)	164.7	56.00
21.2	51,530 (▲5)	10,242 (▲6)	10,451 (▲5)	6,521 (▲7)	152.4	56.00
22.2 予	56,600 (10)	12,600 (23)	12,800 (22)	8,200 (26)	159.6	56.00

(注1)21年9月1日付で普通株式1株につき1.2株の割合で株式分割を実施。22.2予の1株利益は当該株式分割考慮後の数値
 (注2)22.2予の1株配当は分割前の第2四半期末28円と分割後の期末28円の単純合計



【主要株価指標】 (売買単位：100株)	
株価 (2021/10/8)	5,000 円
年初来高値 (高値日)	5,140 円 (21/10/6)
同 安値 (安値日)	2,468.3 円 (21/1/4)
予想 P E R (22.2 予)	31.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,502.3 円
P B R	3.33 倍
予想配当利回り	1.23 %
(分割考慮後1株当たり配当金年61.60円)	
R O E (21.2)	9.1 %
発行済み株式数	5,160 万株